



眺望地より背山・妹山を望む

このあたりから、背山・妹山を眺めることができる。万葉びとの目の前にはささげもののない風景が広がっていたはずである。

相賀大神社

総社三郎明神社と呼ばれた高野山密蔵院相賀荘の惣社。正平10年(1355)の銘をもつ砂岩製燈籠が残る。県指定重要文化財。

到着

JR高野口駅 1.0km 20分

名古屋廃寺跡 4.7km 94分

応其寺 1.7km 34分

閻峠 2.9km 58分

大師井戸 1.6km 32分

飛び越え石 0.7km 14分

JR隅田駅

出発

1 真土山と越え

真土山は紀伊国と大和国との国境にあります。古代の旅人たちがこの地を過ぎる際の感慨を詠んだ歌は多く万葉歌として残っています。古の旅に思いをはせつつJR隅田駅から真土山を越え、大和街道に沿って進み、JR高野口駅に至ります。

名古屋廃寺跡

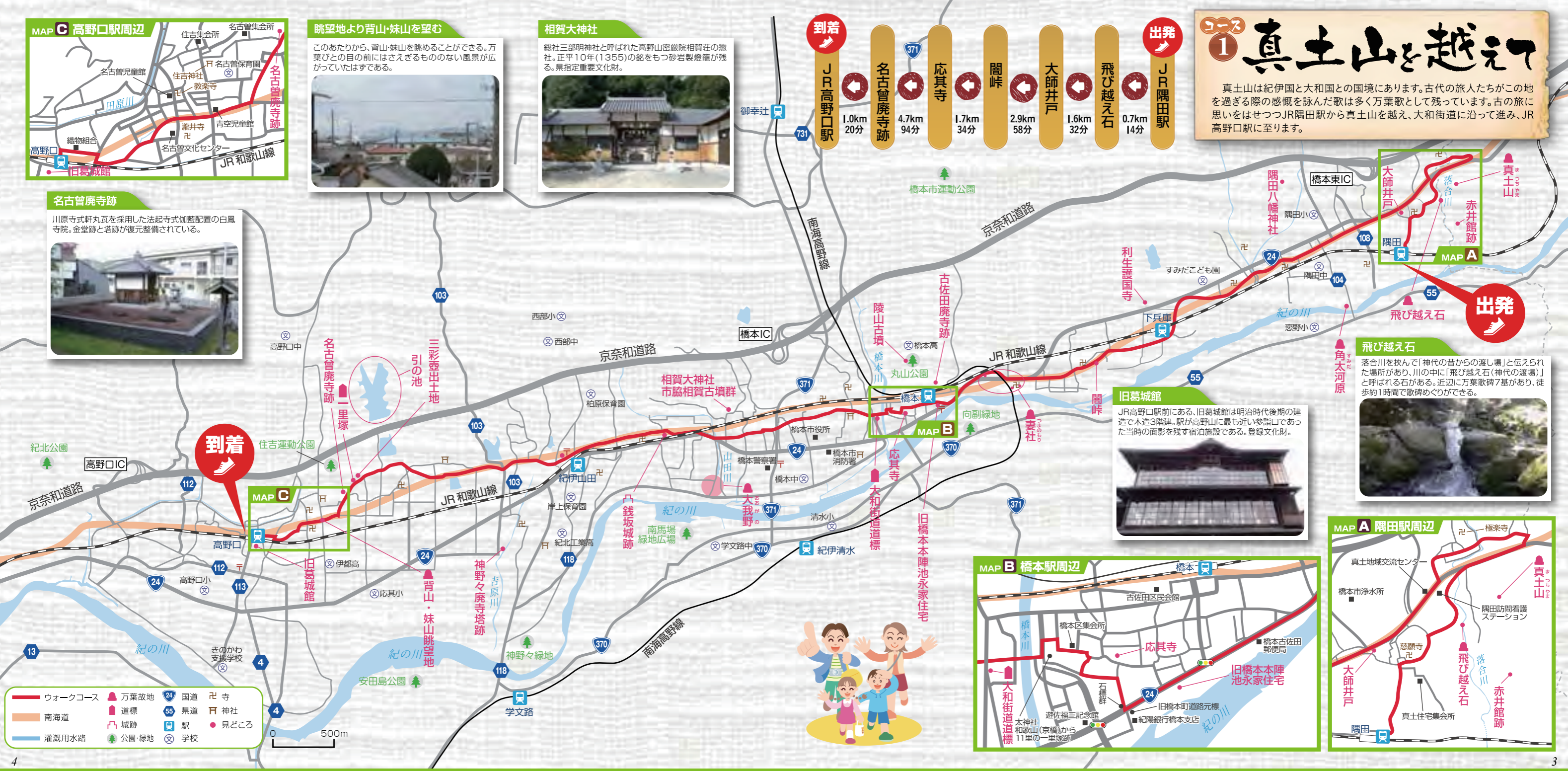
川原寺式軒丸瓦を採用した法起寺式伽藍配置の白鳳寺院。金堂跡と塔跡が復元整備されている。

飛び越え石

落合川を挟んで「神代の昔からの渡し場」と伝えられた場所があり、川の中に「飛び越え石(神代の渡場)」と呼ばれる石がある。近辺に万葉歌碑7基があり、徒歩約1時間で歌碑めぐりができる。

旧葛城館

JR高野口駅前にある、旧葛城館は明治時代後期の建造で木造3階建。駅が高野山に最も近い参詣口であった当時の面影を残す宿泊施設である。登録文化財。



- ウォークコース
- 万葉故地
- 国道
- 寺
- 道標
- 県道
- 神社
- 南海道
- 城跡
- 駅
- 見どころ
- 灌漑用水路
- 公園・緑地
- 学校



コース
1

真土山と越えて



万葉故地と歌碑

「**真土山**」は、大和と紀伊の国境をなす山であったため、望郷の思いと未知の世界への憧れの心が交錯して8首もの多くの歌が詠まれました。

白たへに にほふ真土の 山川に

我が馬なづむ 家恋ふらしも

「**飛び越え石**」はこの歌の詠まれた地として万葉の人気スポットのひとつです。ここをボンと越えると、そこはもう紀伊国です。

陵山古墳から名古曾廃寺跡へ

5世紀、伊都地域を掌握した豪族の墳墓が橋本駅の北、標高120mの段丘(比高差約25m)南端につくられた円山公園に所在する陵山古墳。6世紀になると各地の有力氏族が横穴式石室を埋葬施設とする円墳を築造しました。相賀大神社裏山の市脇古墳群、隅田八幡神社下方の八幡宮古墳などです。

なお、隅田八幡神社が保管してきた人物画像鏡(国宝)は東京国立博物館に預けられそのレプリカ

真土周辺の古墳群

隅田八幡神社

ここに伝わる人物画像鏡は、日本最古の金石文の一つとして国宝に指定されています。10月中旬の例祭は県の無形文化財となっています。枝垂桜、花菖蒲も人気です。

利生護国寺

聖武天皇が行基に命じて建てたとされる寺院。本堂は国の重要文化財、本尊の大日如来座像は県指定重要文化財。秀吉ゆかりの太閤駒繫ぎの松があります。また2年に1度、大茶碗でお茶をいただく「大茶盛」が催されます。

「**大我野**」では紀伊国行幸のお供の一人の詠んだ歌が残されています。

大和には 聞こえ行かぬか 大我野の
竹葉刈り敷き 廬せりとは

当時は竹の葉を敷いての野宿にちかい仮寝でした。なお「**背山眺望地**」からは、およそ25キロ下流にある「**背山**」を見はるかすことができます。また道々には万葉歌碑が建てられており、これを見ながら歩くのも楽しみの一つです。

を神社で見ることができます。

7世紀後半には橋本市古佐田・神野々・名古曾に白鳳寺院が建立されました。川原寺式軒丸瓦、本薬師寺式軒丸瓦・軒平瓦の採用に共通点があります。古佐田廃寺跡は明確でないが神野々廃寺跡では塔跡、名古曾廃寺跡では整備された金堂跡、塔跡を見ることができます。

名古曾墳墓から重要文化財に指定された8世紀後半の奈良三彩の骨蔵器が出土しています。実物は京都国立博物館で保管され、橋本市産業文化会館にレプリカが展示されています。

相賀大神社と市脇相賀古墳群

もとは総社三部明神社と呼ばれ高野山密厳院相賀荘の惣社。境内には県指定の正平10年(1355)の銘が刻まれた砂岩製燈籠が残っています。また、鐘楼の釣鐘は元禄13年(1700)柏原村長兵衛作で橋本市指定文化財。神社裏山には同じく市指定文化財の8基からなる市脇相賀古墳群が所在し、2号墳の横穴式石室玄室を見ることができます。

名古曾廃寺跡(県史跡)

大和街道沿いに法起寺式伽藍配置の塔・金堂の瓦積基壇が復元整備されています。川原寺式、本薬師寺式軒丸瓦を用いた7世紀後半の寺院跡で県指定史跡です。塔心礎は地元で「護摩石さん」と呼ばれ小堂で護られています。

「**妻の社**」は、

紀伊国に 止まず通はむ 妻の社

妻寄しこせね 妻といひながら

と詠まれました。万葉びとはなべて愛妻家が多かったようです。



神野々廃寺



奈良三彩

橋本市産業文化会館展示のレプリカ

神野々廃寺塔跡(県史跡)

神野々西信号の南に巨大な結晶片岩の心礎をもつ県指定の塔跡が残っています。基壇は川原石を用いた乱石積基壇で一辺13m、塔跡と周辺からは7世紀後半の塙仏、川原寺式軒丸瓦、本薬師寺式の軒丸瓦などが出土しています。

名古曾墳墓(県史跡)

昭和38年、和泉山脈の山裾から、総高22.5cmの奈良三彩骨蔵器(重要文化財)が滑石製石櫃に納められ出土。埋納土坑の須恵器から8世紀後半に成人男子火葬骨を葬ったものと考えられています。